

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名（非公開）	団体・役職
内部	関係者ワークショップ、関係者インタビュー、評価全体の進捗管理		社会福祉法人マーシ園 ミライサポートあい 所長
内部	評価全体の進行管理、関係者ワークショップ、評価報告書作成		社会福祉法人マーシ園 マーシ園八乙女 施設長

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

- I 引きこもりや精神障害者へのコミュニケーションサポート体制が構築されつつあり、孤立者が本心を発言できはじめている状態になる。
- II 引きこもりや精神障害者及びその世帯へのアウトリーチ体制が構築されつつあり、孤立者・その家族がアウトリーチを受けはじめている状態になる。
- III 引きこもりや精神障害者による孤立者が、地域とのつながる場が構築されつつあり、当事者が役割を持ち地域とつながり始めている状態になる。また、活動により、協力者・賛同者が増え、地域での総働がはじまっている状態になる。

指標	目標値・状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
<p>1-① 引きこもりや精神障害に対する偏見が解消される。</p>	<p>① 120人（間接者40人×3回） 11/21 引きこもり等支援に関する講演会を開催した。 住民団体から27人参加あり。関係機関や運営スタッフ合わせて91人が受講した。 間接者：27人／120人 達成率：22.5%</p>	<p>令和4年 3月</p>	<p>研修講演会は、3回開催を計画していた。 令和3年度に1回目を開催した。3回のうち2回目に当事者によるパネルディスカッションを予定していたが1回目に集約、実施済みとなった。 このことにより、研修講演会を合計2回に減らすか、別に講師を擁立して計画通り3回とするかについて検討中である。</p>
<p>1-② 関係機関との連携による多職種チームができる。</p>	<p>② 2チーム 【引きこもり等支援連携チーム】 ・情報交換会を開催した。 実施回数（5回／R3年度） 【個別支援チーム】 ・J 17歳 女 R3.9.21（初回） ・k 41歳 男 R3.4.13 〃</p>	<p>令和4年 3月</p>	<p>【引きこもり等支援連携チーム】 南砺市、南砺市社会福祉協議会 富山県立となみ総合支援学校 障害福祉サービス事業所 ミライサポートあい 【個別支援チーム】 J…本人、父、ミライサポートあい 病院（Dr、PSW、看護師、保健師） K…本人、叔父、南砺市、民生委員 病院、基幹相談および相談支援事業所 生活介護事業所（日中活動） 居宅介護事業所（ヘルパー）</p>

<p>1-③ 引きこもりや孤立状態にある人の実数を把握する。</p>	<p>③ 400人（現在の推計値）</p> <p>全地域づくり協議会に調査を依頼したが協力を得られず。連携のあり方について協議した結果、4地域に絞り込んだモデル事業として勉強会をしながら連携を深める体制に変更することになった。</p>	<p>令和4年 3月</p>	<p>南砺市内全地域づくり協議会（31地域）に「引きこもり等モデル事業」への参加を呼び掛けた結果、次の協議会と連携することになった。</p> <p>① 大鋸屋地域づくり協議会（城端地域） ② 南山見地域づくり協議会（井波地域） ③ 福野北部地域づくり協議会（福野地域） ④ 石黒地域づくり協議会（福光地域）</p>
<p>1-④ 当事者と面会する機会があり困り事を話すことができる。</p>	<p>④ 15人</p> <p>当事者は、「本人・母親・祖母・父・叔父」など様々であった。</p> <p>面会者：12人／15人 達成率：80%</p>	<p>令和4年 3月</p>	<p>「ミライサポートあい」へ来所された面会者数 年齢、男女、（ ）…面会者、初回日、相談経路</p> <p>B 20代 女（母親） R3.7.27 チラシⅠ C 48歳 男（本人） R3.7.28 〃 D 19歳 女（母親） R3.8.17 〃 E 42歳 男（母親） R3.10.22 〃 H 40歳 女（父親） R3.12.3 南砺市社協 I 23歳 男（祖母） R3.12.17 〃 J 17歳 女（父親） R3.9.21 医療機関 K 41歳 男（叔父） R3.4.13 行政 L 26歳 男（本人） R3.9.25 関係機関 M 47歳 男（本人） R3.11.26 医療機関 N 55歳 男（姉） R4.3.22 南砺市社協 O 17歳 女（母親） R4.3.2 チラシⅡ</p>

<p>Ⅱ－① 当事者が相談できる窓口機能ができている。</p>	<p>① 15人</p> <p>窓口利用者：指標Ⅰ－④参照</p> <p>面会者数による達成率：80%</p> <p>窓口の機能による達成率：100%</p>	<p>令和4年 10月</p>	<p>【相談窓口】</p> <p>ミライサポートあい 住所：南砺市院林82-1 電話：23-4003（専用） 時間：9：00～17：00（平日）</p> <p>【住民への周知】</p> <p>チラシを作成し南砺市内に全戸配布した。 チラシⅠ…南砺市広報R3年8月号 チラシⅡ…南砺市広報R4年3月号</p>
<p>Ⅱ－② 当事者と支援者の間に信頼関係が生まれる。</p>	<p>② 1ヶ所</p> <p>信頼関係を育む場所として「ミライサポートあい」を設置した。</p>	<p>令和4年 10月</p>	<p>利用者 J・K・Lについて、信頼関係を築くことができた。</p> <p>Jは「ミライサポートあい」の利用者から「ピアサポートあい」へ移管することから居場所の利用者から分離となるが、「引きこもり等支援」による相談援助を継続する。</p>
<p>Ⅱ－③ 困難な状態になった理由が分析できる。</p>	<p>③ 15人</p> <p>分析者：4人 達成率：26.7%</p>	<p>令和4年 10月</p>	<p>利用者 J・K・L・Nについて、引きこもりや精神障害により「日常生活及び社会生活が困難な状態になった理由」を分析することができた。</p> <p>地域づくり協議会との連携による調査が中止となったことから、幅広く「生活が困難になった理由」を分析することが出来なかった。しかしながら、4地域づくり協議会とのモデル事業により令和5年度に分析者数が増えるものと予測している。</p>

<p>Ⅲ－① ケア会議を通してケアプランが作成できる。</p>	<p>① 15人 プログラム作成数：3人 達成率：20%</p>	<p>令和5年 2月</p>	<p>利用者 J・K・Lについてプログラムを検討、ケアプランに基づく支援を実施した。 この指標は、令和4年度から本格的に取り組む予定である。</p>
<p>Ⅲ－② 関係機関や住民によるサポートが受ける居場所が南砺市福野地域にある。</p>	<p>② 1ヶ所 設置済み：達成率100% 充実度：今後の課題</p>	<p>令和5年 2月</p>	<p>相談窓口として「ミライサポートあい」を設置した。令和3年度から居場所の提供が始まっている。今のところ利用者は1人であり、かつ令和4年4月から他事業所へ移管したので0人となった。 令和4年度は、更に地域の住民に周知していくので、個別ケースに合わせた居場所の提供からプログラムを紹介、その活動への参加を募る方法へ転換を目指す。関係機関にも支援に参加してもらう環境を整える。</p>
<p>Ⅲ－③ 居場所にて余暇を楽しむことや、居場所から外に出て社会見聞を広げることができる。</p>	<p>③ 15人 対応した人：1人 達成率：6.7%</p>	<p>令和5年 2月</p>	<p>利用者 Jについて、居場所の利用に関するプログラムを提供することができた。 内容は、富山県立S高校に編入するための受験勉強を主体としたプログラムの作成と居場所の提供を行った。</p>
<p>Ⅲ－④ 福祉サービス等を利用して、人との交流や働く力を身につける。</p>	<p>④ 15人 対応した人：3人 達成率：20%</p>	<p>令和5年 2月</p>	<p>利用者 J・K・Lについて、居場所の確保や居場所から外に出る支援を行った。 J…ミライサポートあい K…生活介護事業所 L…(株)ガラバゴス 桜が池 薪割り作業</p>

III-⑤ 自立した生活を取り戻す。 家族も安心して働ける地域になる。	⑤ 45人（当事者15×3） 当事者：3人 3/15人 20% 関係者：9人 9/45人 20%	令和5年 2月	利用者 J（本人・父親 2人）・K（本人・叔父 2人）・L（本人・家族4人 5人）について、積 極的な支援を展開することができた。
--	--	------------	---



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい <p>と自己評価する</p>	<p>研修講演会の実施や南砺市内全域の民生委員児童委員協議会の方々へ当事業の説明に出向いた結果、引きこもり等支援の必要性を共有することができた。</p> <p>また、南砺市内全戸に2回チラシを配布して住民に周知を行ったことや、引きこもり等連携支援担当者会議の開催により情報交換が行われるようになった結果、15人の相談を受付、その内4人について具体的な活動へと結びつけた。</p> <p>一方で地域づくり協議会との連携による「引きこもりや孤立状態にある人の実数を把握する調査」は実施することができず、地域のニーズが把握できていない。ローカルな総働による事業の展開が必要であり、後の話し合いにより住民団体との連携は「引きこもり等支援モデル事業」に変更して実施することになった。</p> <p>その方法とは、地域づくり協議会で勉強会を開催しながら意見交換を行い、その地域にある課題を把握しながら孤立者等へアプローチするものである。</p>

	<p>令和4年5月から、4地域の協議会とモデル事業を進めていくので、引きこもりや精神障害により孤立状態にある人の情報を得ることができるのではないかと期待しているが、相談があった方への寄り添いは、支援者側がイメージするほど順序良く進むものではなく、当事者と面会しようとしたが会うことすら出来ないケースが多い。こうしたことを踏まえ、当事者にとって身近な存在である地域住民による見守りや支援機関につなぐ体制づくりを行い、ローカルな総働へと結びつけることがポイントになるであろう。その結果、アウトリーチによる支援が充実することにつながり、短期アウトカムの目標値をおおむね達成できる見込みがあると自己評価した。</p>
--	--

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	1. 活動は事業計画どおり実施されているか 2. 事業を実施するうえでの阻害要因が発生していないか 3. 設定した目標に対し、当事業の課題としていた事項の解消に向けた活動の進捗は明確か	<p>地域づくり協議会との連携が遅れている。南砺市内全域に引きこもり等の実態調査を実施する予定であったが理解を得られず中止した。令和4年度に「引きこもり等支援モデル事業」という形に変更した連携体制を目指すことになった。</p> <p>一方でチラシの全戸配布や引きこもり等支援連携会議の開催により情報交換が行われ、相談を受けたケースが15件あり、結果を残すことができた。</p>	<p>地域づくり協議会との連携が進まなかった。このことにより、実績が残せないのではないかと考えたが、結果として15件の相談があり、4件について支援を展開することができた。チラシの発行や、引きこもり等支援連携担当者会議による活動が良かったのではないと思われる。</p>
実施をとおした活動の改善、知見の共有	アウトプットに影響を与えた要因や今後留意すべき内容は明確か	<p>南砺市内全域の地域づくり協議会に引きこもり等調査を依頼する手法は、スケールが大きすぎることや、個人情報の問題がありリスクが多すぎるとされ中止した。今後はモデル事業として小さな単位に再編、31地域から4地域に絞り込み連携するものとした。</p>	<p>どのような手法をとれば地域づくり協議会と連携することができるのかについて、十分に協議を行った。既に4地域づくり協議会と連携することが決まっており、情報収集が進むと思われる。</p>
組織基盤強化・環境整備	1. 事業の運営管理体制に問題が生じていないか 2. 組織の財務状況に問題が生じていないか	<p>運営管理体制については問題が生じていない。</p> <p>地域づくり協議会との連携方法が変わったので、その分の予算を次年度に繰り越すことになった。</p>	特に無し

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

南砺市の住民自治組織である地域づくり協議会との連携による孤立者調査ができなかったことから、地域の実態把握が遅れ気味になった。その後の話し合いにより「引きこもり等支援モデル事業」に変更して一緒に取組む協議会を公募する方法に変更した。その結果、4地域づくり協議会と連携することになり、令和4年度上期に勉強会や意見交換会を実施してその地域の課題を把握、支援体制の整備へと結びつけるものとする。

南砺市旅川福祉交流館に相談窓口である「ミライサポートあい」を創設した。ここは相談の窓口機能に加えて当事者の居場所を兼ねるよう運用していく。主として引きこもり等連携支援担当者会議の会場として使用、関係者に集ってもらい居場所の運営に関して協力を求めた。今後、地域づくり協議会と連携を進めていくので「ミライサポートあい」が持つ機能とプログラムを周知して、居場所の利用を呼び掛けることを想定している。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ・チラシの発行によりミライサポートあいへの問合せがあったこと、引きこもり等連携担当者会議における情報交換により一部の当事者を把握することができた。
- ・東近江市への視察を通して、薪割り作業の有効性や引きこもり者との係わり方について学ぶことができた。
- ・桜が池キャンプ場の再整備に取り組む(株)ガラパゴスとの連携により、薪割り作業に取り組む利用者が位置付けられた。
- ・18歳以上の方を対象として取組む予定にしていたが18歳未満の当事者を支援することができた。また、この方が初の居場所の提供者となった。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある <input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>南砺市地域づくり協議会との連携によって調査の実施を計画していたが、結果として協力を得られず地域に潜むニーズを把握することができなかった。このことにより、孤立者の情報を得られなかったことが後の短期アウトカムに影響する。令和4年度に入り、4つの地域づくり協議会と連携した「引きこもり等支援モデル事業」を経て住民団体と勉強会や意見交換を実施する。これが上手く機能すれば、居場所の提供や障害福祉サービス事業所との連携、就労体験の場の提供が活発になり事業の改善が進むと見込まれる。</p>

添付資料

- 1.中間評価実施前の事業計画
- 2.評価計画書